

1-1 日本とその周辺の地震活動（2024 年 11 月～2025 年 4 月） Seismic Activity in and around Japan (November 2024 – April 2025)

気象庁
Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺で M5.0 以上の地震は 90 回、M6.0 以上の地震は 8 回発生した。このうち日本国内での最大は、2024 年 11 月 26 日に石川県西方沖の深さ 7km で発生した M6.6 の地震（最大震度 5 弱）、及び 2025 年 1 月 13 日に日向灘の深さ 36km で発生した M6.6 の地震（最大震度 5 弱）であった。日本周辺を含めた最大は、2024 年 12 月 8 日に千島列島の深さ 146km（USGS による）で発生した M6.8 の地震（日本国内で観測した最大の揺れは震度 2）であった。

2024 年 11 月～2025 年 4 月の M5.0 以上の地震の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。

(1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）
特に目立った地震活動はなかった。

(2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）
2025 年 1 月 23 日 02 時 49 分に福島県会津の深さ 4km で M5.2 の地震（最大震度 5 弱）が、同日の 08 時 09 分にはほぼ同じ場所の深さ 3km で M4.7 の地震（最大震度 4）が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。発震機構は、いずれも北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

(3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」及び「令和 6 年能登半島地震」の頁参照）
能登半島では 2020 年 12 月から地震活動が活発になっており、2023 年 5 月 5 日には M6.5 の地震（最大震度 6 強）が発生していた。2023 年 12 月までの活動域は、能登半島北東部の概ね 30km 四方の範囲であった。

2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分に石川県能登地方の深さ 16km で M7.6 の地震（最大震度 7）が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東－南西に延びる 150km 程度の範囲に広がった。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、M7.6 の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024 年 11 月 26 日 22 時 47 分に M6.6 の地震（最大震度 5 弱）が発生し、震度 1 以上を観測した地震が 11 月は 136 回、12 月は 37 回、1 月は 12 回、2 月は 25 回、3 月は 12 回、4 月は 12 回（このうち、石川県西方沖の M6.6 の地震活動域で 11 月 26 日～30 日は 123 回、12 月は 29 回、1 月は 5 回、2 月は 18 回、3 月は 4 回、4 月は 6 回）発生するなど活発な状態が続いている。

2024 年 11 月 7 日 07 時 54 分に硫黄島近海の深さ 10km（CMT 解による）で M6.3 の地震（最大震度 2）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2024 年 11 月 11 日 19 時 16 分（日本時間）にマリアナ諸島の深さ 10km（CMT 解による）で M6.0 の地震（日本国内で震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震はフィリピン

ン海プレート内で発生した。発震機構（CMT 解）は北東－南西方向に圧力軸を持つ型である。

2024 年 12 月 27 日 06 時 02 分に鳥島近海の深さ 10km（CMT 解による）で M6.2 の地震（震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は、東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2025 年 4 月 18 日 20 時 19 分に長野県北部の深さ 13km で M5.1 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った地震活動はなかった。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2025 年 1 月 13 日 21 時 19 分に日向灘の深さ 36km で M6.6 の地震（最大震度 5 弱，長周期地震動階級 2）が発生した。この地震により，宮崎県の宮崎港（国土交通省港湾局）で 23cm の津波を観測するなど高知県から鹿児島県にかけて津波を観測した。

気象庁はこの地震に対して，最初の地震波の検知から 6.1 秒後の 21 時 19 分 44.4 秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また，13 日 21 時 29 分に高知県及び宮崎県に津波注意報を発表した（13 日 23 時 50 分に津波注意報を全て解除）。

気象庁では，13 日 21 時 55 分にこの地震が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始したことをお知らせする南海トラフ地震臨時情報（調査中）を発表し，南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し，この地震と南海トラフ地震との関連性について検討を行った。その結果，今回の地震は南海トラフ地震防災対策推進基本計画で示されたいずれの条件にも該当せず，南海トラフ地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる現象ではなかったことから，13 日 23 時 45 分に南海トラフ地震臨時情報（調査終了）を発表した。

この地震は，発震機構（CMT 解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で，フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

この地震の震源付近では，2024 年 8 月 8 日 16 時 42 分に M7.1 の地震（深さ 31 km，最大震度 6 弱）が発生しており，この領域では 2024 年 8 月 8 日から 2025 年 1 月 31 日までに震度 1 以上を観測した地震が 55 回発生した。

2025 年 4 月 2 日 23 時 03 分に大隅半島東方沖の深さ 36km で M6.1 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震は，フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2025 年 1 月 21 日 01 時 17 分に台湾付近で M6.1 の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度 1）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は，西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型である。

(7) その他の地域の地震活動

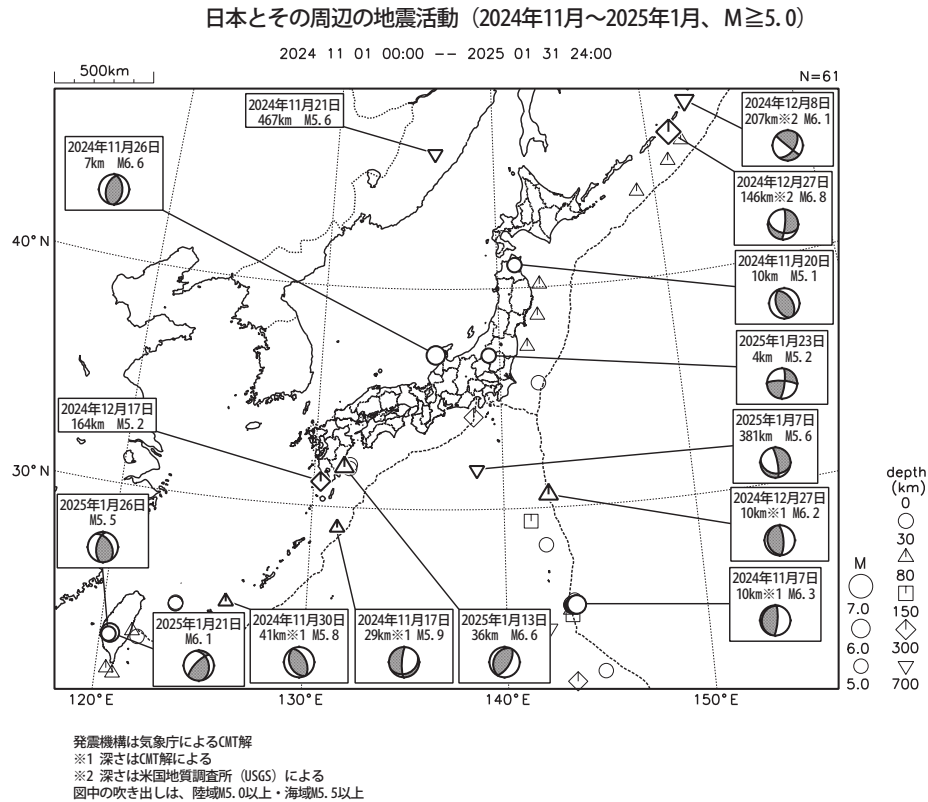
2024 年 12 月 8 日 19 時 25 分（日本時間）に千島列島の深さ 207km（USGS による）で M6.1 の地震（日本国内で観測した最大の揺れは震度 1）が発生した。この地震の発震機構（気象庁による CMT 解）は東北東－西南西方向に圧力軸を持つ型である。また、同月 27 日 21 時 47 分には千島列島の深さ 146km（USGS による）で M6.8 の地震（日本国内で観測した最大の揺れは震度 2）が発生した。この地震の発震機構（気象庁による CMT 解）は、北西－南東方向に圧力軸を持つ型である。これらの地震は太平洋プレート内部で発生した。

なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

2016 年 4 月 1 日以降の震源では、M の小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。

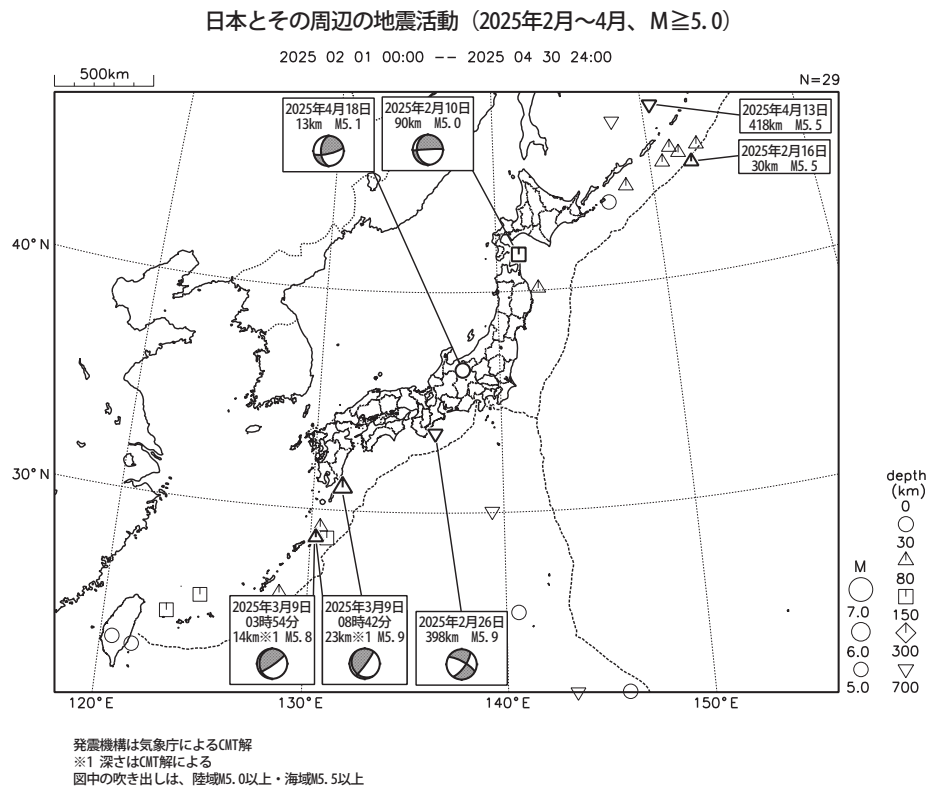
2020 年 9 月以降に発生した地震を含む図については、2020 年 8 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、日本海溝海底地震津波観測網（S-net）や紀伊水道沖の地震・津波観測監視システム（DONET2）による海域観測網の観測データの活用、震源計算処理における海域速度構造の導入及び標高を考慮した震源決定等それまでのデータ処理方法との違いにより、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがある。

震源の深さを「CMT 解による」とした場合は、気象庁 CMT 解のセントロイドの深さを用いている。



第 1 図 (a) 日本とその周辺の地震活動 (2024 年 11 月～2025 年 1 月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)

Fig. 1(a) Seismic activity in and around Japan (November 2024 - January 2025, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).



第 1 図 (b) つづき (2025 年 2 月～4 月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)

Fig. 1(b) Continued (February - April 2025, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).